

ほけんだより



NO.9

笠間市立稲田小学校
令和5年3月3日

日中は暖かくなり、春の兆しを感じる今日この頃です。今年度も残り1か月となりました。日頃より、学校教育活動にご協力をいただきましてありがとうございます。2月に流行したインフルエンザは、現在のところ落ち着き、子ども達は元気に過ごしています。引き続き、感染症予防に努めていきます。

第2回学校保健安全委員会が開催されました（Zoomにて）

学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生方よりご指導・ご助言をいただいた内容です。ご覧ください。

○学校医 磯長光先生

新型コロナウイルス感染症が2019年より流行し、現在に至っています。また、今年はインフルエンザA型も流行し、稲田小も一時学級閉鎖の対応をとりました。インフルエンザA型の後、B型が流行する傾向があるため、引き続きウイルス防御に努めていただきたいです。

○学校医 下田 雅樹先生

今月の13日からマスクの着用が個人の判断が基本となります。また、5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されます。5類になることによって、届出や行動制限等はなくなり、マスクの着用は自由になるものの、病院はできるだけマスクの着用を勧めていきたいと考えているところです。

○学校歯科医 山崎 美樹子先生

コロナ禍ではあるものの、少しずつ今までの行事が戻ってきて、子ども達にとって良いことだと思います。ここ2～3年、新型コロナウイルス感染症の流行により、家にいる時間が多くなり、間食が増えたこと、またマスクをすることによって、無意識のうちに口呼吸になり、口腔内の乾燥が進み、むし歯が増えてきています。低学年辺りまでは、保護者が手をかけることもあり、比較的むし歯の悪化を防ぐことができます。しかし、学年が上がるにつれて、本人に任せるようになり、子ども自身のセルフケアが難しい時期になってきます。例えば、歯ブラシを取りやすいところに置いたり、小さいお子さんはキャラクターものを利用したりして、「歯みがきをしたい」という環境づくりや、家族のさりげないサポートが大切になってきます。子ども達が、心身ともに健康に過ごすためには、学校では歯科検診実施、家庭では親が歯を丁寧に時間をかけてみがく姿を見せてほしいです。子ども達の自立心を引き立て、支えながら、子どもの歯と口腔の健康をキープすることが大切です。

○学校歯科医 今湊 良証先生

第31回茨城県歯科医学会 県民公開講座の案内（詳細は別添付ファイルをご覧ください。）

オンデマンドによるオンライン配信 令和5年3月18日（土）～4月9日（日）

「茨城県歯科医師会」HPにアクセス（QRコードは別添付チラシ内）

「今、子供達の口の機能が危ない！」という演題で、教職員、保護者の皆様にぜひご覧いただきたいです。食べる機能は乳幼児が失敗と成功を繰り返し獲得するものです。子ども達の食べる機能について、詳しく説明いただける内容となっています。

○学校薬剤師 飯田徳子先生

5月8日以降、コロナの検査キット等が幅広い保健薬局で販売可となります。みなさんのサポートになる薬局が増えてくるので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

歯科受診について



歯科受診率について、現在のところ、83.3%となっております。むし歯は、自然治癒するものではなく、放っておくと進行していきます。新年度に歯科検診がありますが、その前に春休み等を利用して、早めの受診をお勧めします。ご協力をよろしくお願いいたします。